

【別紙】 令和4年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立小谷場中学校)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	自主・協働・創造
目指す学校像	生徒一人一人に笑顔と夢がある学校

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者(教職員を除く)	8名
事務局(教職員)	4名

領域	学 校 自 己 評 価			年 度 評 価 (令 和 5 年 2 月 1 日 現 在)		
	年 度 目 標			重点目標の達成状況	達成度	
	現状と課題	重点目標	具体的方策			次年度への課題と改善策
組織運営	<p>○企画委員会、生徒指導委員会は、組織的に機能している。両組織の構成人数が多く、時間割に組み込めない。</p> <p>□コロナ禍の変化を受け入れ、新しい視点で再構築していく必要がある。</p>	<p>●学校運営参画意識を高く持ち、組織的で臨機応変に対応できる教育活動を推進する。</p> <p>■各分掌、各主任を核として、関係教職員に目標や目的を示した実践的な取り組みを進める。</p>	<p>○重点目標の確認と実現するための方策を具体的に示し、計画的な企画運営</p> <p>□学校課題達成に向け、研修主任、教科主任と進捗状況の情報共有を適宜確認</p>	<p>○企画委員会、生徒指導委員会を中心に組織的な対応を進めてきた。</p> <p>(教師上位評価100%)</p> <p>□制限下における行事の計画、実践、発信は各主任を中心として組織的な実践を進めることができた。</p>	A	<p>○学校のニューノーマルな教育活動をゼロベースで見つめなおす必要がある。</p> <p>A</p> <p>○年度末、研修会をにおいて提案された改善策を具現化するための情報収集と計画案を早期に求めていく。</p>
教育課程	<p>○コロナ禍を踏まえた行事の精選、及び内容の見直しが大きな課題である。</p> <p>○評価評定に関し、算出根拠にばらつきや偏りが見られ、全体での調整が必要である。</p>	<p>●既習事項定着のために、「家庭学習の習慣化」を通し、学力を向上させる。</p> <p>■各教科間での評価を理解し、指導と評価の一体化の研修を推進する。</p>	<p>○STEPup教室の各種検定の取得(通年)</p> <p>○タブレット端末を活用した、家庭学習の充実(通年)</p> <p>□研修機会を充実(定期研修、夏季休業中の研修)</p>	<p>○生徒は概ね学習に向かう姿勢はできているものの「家庭学習」に向かう力は保護者、生徒の自己評価共に半数程度に止まった。</p> <p>□計画的な評価に関する研修を通し、教科間の補正に努めてきた。</p>	B	<p>○STEPup教室のコースの内容の見直しを図り、補習的なコースも検討している。ミライシードの活用をさらに進める。</p> <p>A</p> <p>○各授業について「学びに向かう力」(観点Ⅲ)についての研修を深め、授業に生かす。</p>
開かれた学校づくり	<p>○コロナ禍において過去の組織や運営が規模縮小しつつある、現状を踏まえた体制づくり、協力依頼、情報発信が必要となってきた。</p>	<p>●教師も生徒も地域の中の学校を意識させ、地域との連携を深める。</p> <p>■学校運営協議会への積極的な情報発信と情報共有により、魅力ある学校生活を送る。</p>	<p>○ホームページ、配信メールを活用した教育活動の公開の推進体制作り</p> <p>□現状を踏まえたPTA行事、地域連携行事の推進</p> <p>□校内行事実施に向けて、意見交流を活性化</p>	<p>○各公開行事については、適切に発信に努めHPの充実を図った。保護者に向けて積極的に活用啓発が不足していた。</p> <p>□コロナ禍制限の規制緩和により、柔軟に対応をしたが、感染拡大防止を優先させた。</p>	B	<p>○芝西小学校との連携事業について、検定の実施、授業公開、部活公開の拡大を計画していく。</p> <p>B</p> <p>□PTAの組織化を見直し、総務役員と連携し、役員の選出と再構築を進める。</p>
教職員の資質向上	<p>○悩みを持った生徒や支援を要する生徒をいち早く感じ取れる教師のセンサーが必要である。</p> <p>○お互いを高め合う教職員集団として、課題に対してチームプレーのよい集団作りの推進をする。</p>	<p>●生徒一人一人の心に寄り添い支援できる教職員の育成を進める。</p> <p>■危機管理意識を持ち、自己管理のできる教職員の育成する。</p>	<p>○支援を要する生徒の情報連携と課題の把握、具体的な取組方針を明確化</p> <p>□教職員のキャリアステージに即した研修を推進</p>	<p>○生徒一人一人の「居場所」を踏まえた、個別対応を進めてきた。また、相談室との連携し、不登校支援率は100%である。</p> <p>□在校時間の意識化がされてきた。また、校内で学年を問わず、助け合う雰囲気がある</p>	A	<p>○今後も支援の方法について教職員の情報共有、共通行動の意識をさらに向上させる。</p> <p>B</p> <p>□次年度もボトムアップ型の研修会の実施を推進させていく。</p>
施設・設備等の管理	<p>○協力的な家庭・地域であり、緑化や環境美化が充実している。さらに学校を見る機会の設定する。</p> <p>○コロナ禍を踏まえた学習環境の整備、ミライシードの活用研修機会を設定する</p>	<p>●校内外の潤いのある学習環境を整備、充実する。</p> <p>■教育活動を充実させるためのGIGA端末活用を推進</p>	<p>○ICT環境の計画的整備</p> <p>○安全点検(月1回)の確実な実施と危険箇所への即対応</p> <p>□ミライシードによる生徒の自主的な家庭学習の環境整備の推進</p>	<p>○校内施設の安全点検を踏まえ、危険箇所への迅速な対応してきた。</p> <p>□副教材の費用対効果の検証を通し、予算の意識化に努めてきた。</p> <p>○家庭学習におけるドリル・ワークの活用を推進してきた。</p>	A	<p>○掲示活動の充実化を図り、有益情報の積極的な発信に努める。</p> <p>B</p> <p>□公費の有効活用と私費の減額を目指し、副教材の精選を図る。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日	令和 5 年 2 月 9 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、試行錯誤の中よく計画され対応している。 ・落ち着いた雰囲気の中で授業が展開されている。教師と生徒の関係もいい雰囲気であった。 ・夢ワークの実施に向けて、企業や地域の協力を仰ぎ、学校としても準備をしっかりと進めてほしい。 ・小中合同の検定実施に向けて具体化させる(実施日・送迎・受験可能級等) ・家庭学習の取組に向け、保護者に○付、コメントなど仕掛けを作っている。 ・懇談会で学習の話題を共有する。 ・小中連携で振り返りの研修を実施する。 ・学習状況調査に日頃の学習指導の成果 ・コロナ禍ではあるが、保護者も地域も待ち望む形で運動会や学校行事が実施された。 ・生徒から返ってくるあいさつに元気さの差を感じる。 ・地域の祭りも実施で考えていく、徐々に対応することになるが、あじさい祭りも拡大を考えていく。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談について、個別の対応を丁寧に行っていく。100%支援のために地域人材の活用をするとよい。 ・不登校支援に向けて、応援団の要請を働きかけることもよいのではないかな。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用は、表現力の多様性に対応できるのではないかな。 ・学習環境を整えるために、今後も適切な予算運用をお願いしたい。 ・校内の清掃は行き届いていることを確認できたが、テニスコートの雑草が目につく。 	